AfriMag

2025 vol.6

[あふりまぐ]

宮城アフリカ協会

特集

ガーナと利府町の出会い

QRコードからオンラインでもご覧いただけます。

AFAM
African Association of Miyagi

AfriMag
Vol. 6

目次

03 編集部より
EDITORIAL

04 明るい未来に向けてアフリカと日本がともに歩む - TICAD9 横浜
TICAD9 IN YOKOHAMA: AFRICA AND JAPAN WORKING TOGETHER FOR A BRIGHT FUTURE

05 アフリカの女性:大陸の未来を築く
AFRICA'S WOMEN: BUILDING THE CONTINENT'S FUTURE

06 アフリカで活躍する日本のヒーローたち
JAPANESE HEROES IN AFRICA

08 特集: ガーナと利府町の出会い
SPECIAL FEATURE: GHANA MEETS RIFU

10 マラウイ共和国の紹介
INTRODUCING THE REPUBLIC OF MALAWI

12 マラウィの食文化
MALAWI FOOD CULTURE

14 アフリカの物語 -「話す太鼓と月夜の踊り」
KID'S STORY - THE TALKING DRUM AND THE MOONLIGHT DANCE

16 ガーナのSTEM教育がどう世界を変えるのか
HOW GHANA'S STEM EDUCATION IS CHANGING THE WORLD

18 アフリカ「緑の革命」- 未来の農業
AFRICA'S GREEN REVOLUTION - FARMING THE FUTURE

今回のAfriMagでは、現代アフリカを形づくる多彩な文化や革新、物語をお届けします。アフリカ大陸のたくましさ、創造性、ダイナミズム、そして今日のアフリカを特徴づける成果や課題、可能性に光を当てます。

まず、JICA主催によるTICAD9のテーマ別イベントに宮城アフリカ協会（AFAM）が参加したことをご報告します。これは、アフリカと日本の間での協力、知識交流、対話を促進するというAFAMの継続的な取り組みのひとつです。今号では、このイベントでの注目すべき洞察や議論を取り上げ、人間の安全保障、持続可能な開発、そして革新に対するアフリカの取り組みを紹介します。

さらに、ガーナと利府町の文化・教育交流の報告を通じて、異文化間の対話が相互理解と協力を築く力を持つことを示します。これらの取り組みにより、アフリカの豊かな伝統を日本へ伝えるだけでなく、日本の地域社会や若い人たちがアフリカと意義ある関わりが生まれています。

本号ではまた、世界経済、技術革新、持続可能な開発におけるアフリカの役割も探っています。若者主導の起業活動から、アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）の枠組みに基づく産業連携に至るまで、アフリカが先導し、革新し、世界の進歩に貢献する力を示しています。包摂的な成長、特に女性や若者、社会的マイノリティのエンパワーメントは、この歩みにおいて中心的な課題です。

AfriMagの使命は、ステレオタイプなイメージに挑戦し、アフリカの卓越性に光を当て、情報を届けて心を動かし、コミュニティをつなぐ対話の場を提供することです。私たちは、アフリカ大陸、その人々、そしてその未来への学びや楽しみ、好奇心をかき立てる物語をお届けすることを目指しています。

本号が読者の皆さまに、アフリカを単に「チャンスの大地」としてではなく、ダイナミックに進化し、創造性にあふれ、大切な物語に満ちた場所として関わるきっかけとなれば幸いです。互いに学び合い、多様性を祝福し、アフリカと世界をつなぐ架け橋を強めていきましょう。

ご愛読に感謝するとともに、これからもアフリカの成果、革新、そして可能性にあふれた数々の物語をお届けできることを楽しみにしています。

アイザック・ヤウ・アスィードゥ
AfriMag 編集長

明るい未来に向けて
アフリカと日本が共に歩む

TICAD9 - 横浜

2025年8月、横浜市は第9回アフリカ開発会議（TICAD9）を開催しました。TICADは、アフリカ諸国、日本、そしてその他の国際パートナーが一堂に会し、教育、テクノロジー、貿易、環境といった重要な課題において、アフリカと日本がどのように協力できるかを話し合う大規模な会議です。

8月19日に開催された最もエキサイティングなイベントの一つは:
「アフリカ単一市場への道を開く — アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）発足6周年と今後の展望」でした。

アフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）は、アフリカ諸国にとって、より円滑な貿易を促進する巨大なクラブのようなものです。日本のすべての学校が、特別なルールや複雑な料金なしに、本、スポーツ用具、その他のリソースを共有できたらどうなるでしょうか。AfCFTAはまさにアフリカ諸国のためにそれを実現します。　AfCFTAは、企業の成長、雇用創出、そしてアフリカ大陸全体でのアイデアや製品の共有を可能にします。

このセッションでは、専門家が以下の点について議論しました。

- AfCFTAが過去6年間、アフリカ諸国間の貿易をどのように支援してきたか。
- アフリカと日本が協力して貿易をさらに強化する方法。
- 若者、女性、中小企業がこの新しいシステムからどのように恩恵を受けられるか。

アフリカがどのように強くなり、より繋がりを強めているのかを目の当たりにできたため、聴衆にとって非常に興味深い内容でした。また、日本とアフリカが協力して成長、イノベーション、そしてすべての人々の機会をいかにして支援できるかについても示されました。

学生にとっての大きな教訓は、国境を越えて協力することで、すべての人々により多くの機会を創出できるということです。学校と同じように、知識を共有し、互いに助け合うことが成功につながります。

TICAD9は、政府や企業の指導者だけでなく、若者を含むすべての人々がアフリカの可能性と、国際協力がどのように世界をより良い場所にできるかを学ぶための場です。AfCFTAがどのように成長し、アフリカがどのように貿易、テクノロジー、そして友情の新たな扉を開き続けるのか、共に見守りましょう！

アフリカの女性
大陸の未来を築く

アフリカはエネルギー、創造性、そして可能性に満ちた大陸です。そして、その中心にいるのは女性たちです。母親や娘から学生、そしてリーダーまで、女性はアフリカ全土の約7億5000万人の生活を形作っています。しかし、彼女たちは重要な役割を担っているにもかかわらず、多くのアフリカの女性は依然として、機会と自由を制限される日々の課題に直面しています。

今日でも、アフリカの女性はしばしば重い責任を担っています。多くの地域で、彼女たちは世界平均よりも多くの子どもを産み、伝統や宗教的慣習による制約に直面し、時にはめったに記録に残ることのない暴力に遭遇することもあります。彼女たちを守る法律は存在しますが、現実には平等は未だ手の届かない目標です。

しかし、希望はあります。アフリカ全土で、女性たちが静かな革命を主導しています。農村部では、地域社会を養う食料の多くを生産しています。都市部では、女性たちは事業を営み、オフィスで働き、芸術を創作し、著作を行い、文化や政治に影響を与えています。アフリカの労働力の大部分を女性が占めており、意思決定への参加がますます増え、古い慣習に挑戦し、変化は可能であることを世界に示しています。

女性のエンパワーメントは、単なる公平性の問題にとどまらず、アフリカの成長にとって不可欠です。女性が働き、学び、人生について選択できるようになると、家族も恩恵を受けます。子どもたちはより健康で、より良い教育を受け、地域社会はより強固になります。女性はまた、世帯に新たな収入をもたらし、事業に投資し、経済の繁栄に貢献します。

教育は重要なステップです。何百万人もの少女が、早婚や文化的伝統のために、学校に通えなかったり、早期に退学したりしています。少女たちが教育を受けることができれば、彼女たちは知識、自信、そしてスキルを身につけ、自分自身の未来、そしてアフリカの未来を切り開くことができます。

アフリカの女性たちは力強く、才能に恵まれ、リーダーシップを発揮する準備ができています。彼女たちは農場から工場、教室から政府機関まで、社会のあらゆる分野で既に変化をもたらしています。アフリカの発展は彼女たちにかかっています。私たちが彼女たちに機会を与えれば与えるほど、この大陸の未来はより明るくなるでしょう。

アフリカで活躍する日本のヒーローたち

アフリカの環境をより良くするために尽力した素晴らしい日本のヒーローがいました。彼らはただアフリカに赴いただけではなく、今後何年にもわたり人々の助けになるよう持続的な改善に努めました。そんな彼らの物語を紹介します！

近藤次郎博士 - 水の功労者

ケニアのとある小さな村には、そこで暮らす村人にとって欠かすことができない清潔な水がありませんでした。村人は水を求めて何マイルも歩かなければならず、しかも安全な飲み水ではないこともよくありました。そんな時に、彼らの問題を耳にしたのが、聡明な日本人エンジニア、近藤次郎博士でした。彼は意を決し、きれいな水の出る井戸を掘りおこし、その水の管理方法を村人に指導しました。近藤博士の尽力により、今では何千もの人々が毎日、清潔で安全な水を飲むことができるようになっています！

高橋英樹博士 - 緑の地球の功労者

日本の大学教授、高橋英樹博士は自然を愛し、保護したいと考えていました。彼は子供たちに環境保護の大切さを教えるためにタンザニアへ渡りました。彼が子供たちに示したのは、木を植え、水を節約し、土をきれいに保つち、地球全体を保護するということでした。彼の教えは、アフリカの若いリーダーたちが大地を守り、すべての人々にとってより良い地域社会を作り上げる手助けになりました。

田代哲也博士 - 農業の功労者

ガーナのある地域では、土壌が乾燥し、作物は育たず、農業は困難な状況に陥っていました。日本の農業専門家、田代哲也博士は、農家がより多くの食物を栽培できるよう新しい技術を導入し、専用の農機具の使い方や作物を強く丈夫に育てるための土壌作りなどを指導しました。今では多くの農家がより多くの収穫量を得ることができ、田代博士のおかげで家族や地域社会が潤いました。

ジャイカ - 日本の支援団体

JICA（日本国際協力機構）はアフリカ全土で活動している大きな団体の1つで、道路、学校、病院の建設を支援しています。また、食糧生産や環境の浄化の分野においても農家を支援し、誰もが飲み水を十分に飲めるよう手助けをしています。JICAはケニア、タンザニア、ガーナ、ウガンダ、エチオピア、モザンビークなど、多くのアフリカ諸国と協力して、すべての人々の生活をより良くするための活動を行なっています。

佐藤裕司博士 - 健康の功労者

ウガンダの一部の地域では、人々が病気にかかっても、診察できる医師が不足していました。そんな時、日本人医師、佐藤裕司博士が医療活動に加わりました。佐藤先生は、HIVなどの病気にかかった人々に対する治療方法を地元の医師や看護師に教えました。さらに、医療を受けにくい遠隔地にいる人々のために病院や保健センターの建設にも尽力しました。佐藤先生の活動のおかげで、アフリカに暮らすより多くの人が適切な治療を受けられるようなり、多くの命が救われています。

この日本のヒーローたちは、ただ贈り物をしただけではありません。アフリカの人々と協力して、より良い未来を築きました。きれいな水から農具、そして地球を守ることまで、人々が団結すると素晴らしいことが起こることを示しました。彼らの絆はこれからも続き、そのおかげで未来はもっと明るくなります。

そして今、ここに登場したヒーローたちと同じように、あなたも世界を変えることができます–互いを思いやり、助け合い、私たちがまさに生きている世界をより良きものにするための方法を考えていきましょう！

GHANA MEETS RIFU

特集

2025年夏、利府町は特別な団体を温かく迎え入れました ── 2025年大阪・関西万博の取り組みの一環として訪れた、ガーナの高校生、教育関係者、そして政府高官からなる代表団です。今回の訪問は宮城アフリカ協会（AFAM）が主催し、日本政府の支援を受けて実現したもので、この訪問は単なる旅行ではなく、心と心、そしてアイデアや夢が出会う場となりました。滞在中、代表団は利府町の生徒たちと文化交流を行い、部活動に参加したほか、書道や剣道の体験を通して日本の伝統文化にも触れました。笑い声や好奇心、そしてお互いへの尊敬の念が長く続く絆を築きました。　熊谷大利府町長も心から一行を歓迎し、このイベントの成功が今後の学生交流プログラムの大きな礎となりました。ガーナと利府の物語は、日本とアフリカの友好への誇るべき節目となったのです。

「アクワアバ」ガーナ代表団へ

式典での歓迎

「アクワアバ」はガーナ語で「ようこそ」という意味です。その言葉を合図に、利府町は両国の旗のもと、ガーナ代表団を温かく迎えました。これにより、世代や未来をつなぐ文化の架け橋が始まりました。

文化のリズム

太鼓と踊りが心をひとつに

ガーナの踊りと日本の和太鼓がひとつになり、力強い舞台をつくり上げました。それは単なる催しではなく、二つの文化の間に生きた対話が生まれる瞬間でした。

剣道とケンテ

共に学ぶ規律の力

ケンテをまとったガーナの女子生徒と、剣道着を着た日本の生徒が一緒に剣道を学びました。武道の規律とアフリカの優美さが重なり合い、スポーツが平和と敬意の言葉であることを示しました。

勇気と好奇心

剣道の実演

象徴的な試合では、ケンテをまとったガーナの生徒が日本の剣道師範と立ち合いました。武道を通して、勇気、謙虚さ、そして敬意を体現しました。

言葉を超えた絆

若者たちの交流

若者たちはピースサインや笑い声、写真の撮り合いを通してつながりました。友情は言葉を超え、まごころと自然な交流によって育まれることを示しました。

振り返りのひととき

「馬の背」の景観

馬の背の形をした自然の橋「馬の背」に立ち、代表団は松の小島と穏やかな水面を眺めながら、自然の美しさと文化の絆を深く味わいました。

マラウィ共和国の紹介

マラウイ湖、ブルー・ゼブラ・ロッジ – マラウイ

アフリカのあたたかい心・マラウイ

マラウイは、「アフリカのあたたかい心」としてよく知られています。人々がとても親切だからです。アフリカ南東部にある内陸国で、人口は2,200万人を超えています。首都はリロングウェ（Lilongwe）で、ほかにブランタイヤ（Blantyre）、ムズズ（Mzuzu）、ゾンバ（Zomba）といった大きな都市があります。かつてはイギリスの植民地で「ニアサランド」と呼ばれていましたが、1964年にヘイスティングズ・カムズ・バンダ博士（Dr. Hastings Kamuzu Banda）のもとで独立しました。公用語は英語で、広く話されている言語にチェワ語があります。

マラウイはどこにあるの？

マラウイの経済は農業に大きく頼っています。特にタバコ、茶、サトウキビ、コーヒー、落花生が重要な作物です。また観光も伸びてきており、マラウイ湖、リウォンデ国立公園、ムランジェ山などが見どころです。　電気は主に水力発電でまかなわれていますが、農村部ではまだ十分に行きわたっていません。鉱山の資源もありますが、ほとんど未開発の状態です。

Visit Malawi！マラウイへ行こう！

Lilongwe リロングウェ

マラウイの首都はリロングウェです。町は大きく2つのエリアに分かれています。
旧市街には市場やお店、バス乗り場、住宅地があります。一方、新市街には政府の建物、大使館、近代的なオフィスやホテルがあります。

Mount Mulanje ムランジェ山

マラウイ南部のムランジェ地区にあるムランジェ山は、その姿から「空に浮かぶ島」と呼ばれています。まわりの平原から急に突き出した形がとても目立つ山です。
一番高い山頂はサピトワといい、高さは3,002メートルあります。現在、ユネスコの世界遺産候補の暫定リストにも入っています。

Lake Malawi マラウイ湖

マラウイ湖は、長さ580km、幅は最大75km、深さは706mに達し、面積は29,600平方キロメートルあります。マラウイの東側に広がり、モザンビークとタンザニアとの国境にもなっています。この湖は素晴らしい生物多様性で知られる特別な生態系を持ち、特に魚の種類が豊富です。シクリッドという魚だけでも1,000種類以上が生息し、その多くは世界のほかの場所では見られません。また、アフリカで3番目に大きなこの美しい湖では水泳やシュノーケリング、ダイビング、カヤック、ボート、ヨット、釣り、そして夕日を楽しむクルーズなど、さまざまなレジャーが人気です。湖の水はザンベジ川へと流れ、シーレ川と合流し、有名なビクトリアの滝へとつながっていきます。

マラウイの食文化

ンシマは、トウモロコシの粉と水で作られる濃厚なお粥で、マラウイの国民食です。 野菜、豆、様々な肉や魚料理など様々な副菜と一緒に出されるのが一般的です。その使い勝手から、ンシマはマラウイ料理の中心的存在です。

ンシマを作ろう！

Let's Cook Nsima!

材料（4人分）

とうもろこしの粉：	2カップ
水：	4カップ
塩：	適量

【準備するもの】

- 大きな鍋
- 木のスプーン又はしっかりしたスプーン

作り方

【Step 1】 お湯を沸かします

ポットに4カップに水を入れてお湯が沸騰するまで沸かします。

【Step 2】 小さなボウルで粥のもと（ファラ）を作ります

約1/2カップのトウモロコシの粉を冷水で混ぜ、滑らかなペースト状にします（これでダマになるのを防ぎます）。沸騰したお湯にこのペーストをゆっくり注ぎ入れ、絶えずかき混ぜ、3〜5分間少しとろみがつくまで煮ます。

【Step 3】 残りのトウモロコシを加えます

残りのトウモロコシ粉を鍋にゆっくり振り入れ、力強くかき混ぜます。とろみがつくので、ダマにならないよう混ぜ続け火を弱めます。

【Step 4】 混ぜて調理します

5〜10分間、絶えずかき混ぜながら折りたたむように混ぜます。滑らかで濃厚な状態になり、形作れるようになるはずです。固すぎる場合は少量の水を加え、柔らかすぎる場合はさらに粉を加えてください。

【Step 5】 形を整えて、盛り付けます

スプーンを水で濡らすか、手を水に浸します。ンシマをすくい、丸めたり盛ったり形作ります。温かいうちに付け合わせ（例：豆、青菜、チャンボ、ビーフシチュー）と一緒に食べます。

注：ンシマは冷めると固まるので、出されたら直ぐ小さなボール状に丸めて付け合わせと一緒に右手で食べます。バリエーションとして、キャッサバ粉やソルガム粉を使用してみるのもいいと思います。

KidsStory

話す太鼓と月夜の踊り

昔々、ある小さなアフリカの村に、不思議な「話す太鼓」がありました。この太鼓には村中の人々を呼び集め、明るい月明かりの下でみんなをお祝いに導く力がありました。その村には「月夜の踊り」という特別な伝統があり、そこでは家族や友人が集まって踊り、歌い、喜びを分かち合っていました。その太鼓の響きこそが踊りの中心であり、太鼓なしには踊りは始まりませんでした。

ある日、大変なことが起こりました。「話す太鼓」がなくなってしまったのです！村人たちはあちこち探しましたが、どこにもありません。その夜に予定されていた「月夜の踊り」は、もう開けないかもしれないと思われました。

しかし、そこにはあきらめないひとりの少女がいました。彼女の名前はアマ。アマは「月夜の踊り」が大好きで、それを失うなんて考えられませんでした。そこで彼女は、失われた太鼓を探す冒険に出ることにしたのです。

アマは村を通り抜け、森の奥へと進んでいきました。木々が深くなるにつれて、かすかな音が聞こえてきました。トン、トン、トン!! それは「話す太鼓」の音で、アマを呼んでいたのです。アマは音をたどり、茂みをかき分けていくと、そこには年老いた亀が太鼓のそばに座っていました。

その亀は賢く親切そうに見え、アマは「どうか優しい亀さん、この『話す太鼓』を村に持ち帰らせてください。
『月夜の踊り』にはどうしても必要なんです！」とお願いしました。

亀はゆっくりとうなずき、言いました。「この太鼓は、喜びと優しさを分かち合うと約束した者がいたときだけ村へ戻ってくる。わがままで心の冷たい者には、決して音は鳴らせはしないのだ。」

アマは少し考えてから、にっこり笑って言いました。「私は出会うすべての人に、幸せと優しさを分かち合うことを約束します。」

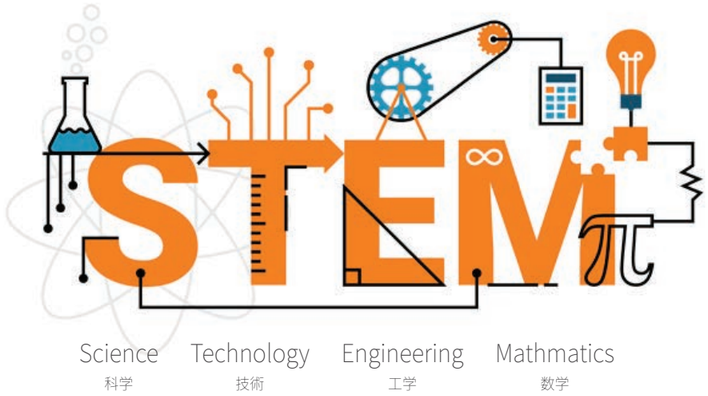
亀はにっこりとほほえみ、ゆっくりとうなずいてアマに太鼓を手渡しました。「あなたは自分の価値を証明しましたね」と亀は言いました。

アマは太鼓を抱えて急いで村に戻りました。村へ到着するとすぐに太鼓を打ち鳴らし、その力強い音が空いっぱいに響き渡りました。魔法の「話す太鼓」の音に引き寄せられて、村人たちがあちこちから走って集まってきました。

その夜、「月明かりの踊り」は、村がこれまでに経験した中でいちばん幸せなものとなりました。人々は満月の下で踊り、彼らの心は喜びと笑いで満たされました。アマの優しさの約束が太鼓を取り戻し、その音楽は皆に幸せな気持ちを思い出させました。幸せは太鼓のリズムのように、分かち合うためにあるのだと。

こうしてその年の「月明かりの踊り」は、愛と一体感、そして美しい「話す太鼓」の音で満たされてさらに特別なものになったのです。

“幸せは分かち合うことで育ち、
優しさは人々を結びつける



ガーナのSTEM教育

西**アフリカ**の国ガーナの学校では、驚くべきことが起こっています。政府はSTEM教育と呼ばれるScience(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathmatics(数学)の包括的教育に焦点を当てたプログラム導入しました。ガーナの若者達が技術分野のリーダーとなり現代社会が直面する問題を解決する力を育てられています。

大学などの学校におけるSTEM教育

ガーナの学校では現在、生徒たちにロボットの作り方、アプリの開発の仕方、また技術の仕組みなどを教えています。アクラにあるガーナ国立STEM学校は、生徒たちがコンピュータや3Dプリンタなどのツールを使って技術を学ぶトップクラスの学校の一つですが、ここの生徒たちは既に世界中で自らの発明やアイデアを競い合っています。

クワメ・ンクルマ科学技術大学（KNUST）などの大学では、学生がコンピュータサイエンスや再生可能エネルギーなどの分野で活躍する準備を進めています。これらの学生はアフリカや世界の重要な問題解決に貢献する技術と科学の専門家になりつつあります。

世界的な影響力

今、ガーナの学生たちは創造的なアイデアで国際的なコンテストで優勝しています。
例えば、アマ・アサンテという学生は、アフリカの農家がより少ない水でより多くの食料を栽培できる太陽光発電式灌漑システムを開発しました。彼女の発明は、ガーナの新たなSTEM教育によって学生たちが世界を変える解決策を考え出している一例に過ぎません。

若手起業家と革新者たち

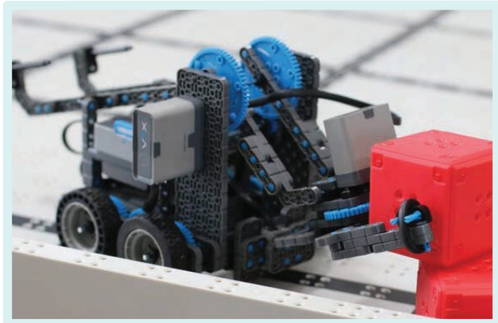
多くのガーナの学生は単に仕事を探しているのではなく、自らビジネスを創り出しています。
若手起業家の一人、クワベナ・オセイは、STEM分野の知識を活かして人々の生活を支援する企業を立ち上げています。クワベナの会社「TechLab Ghana」は、教育や医療へのアクセスが容易になるモバイルアプリを開発しています。

ガーナのSTEM教育の未来

ガーナはSTEM教育への投資を続ける中、技術とイノベーションの分野で主導的立場を確立しつつあります。政府は、特に地方において学生向けリソースの拡充や技術ツールへのアクセス拡大を図っていてSTEM教育のさらなる向上に取り組んでいます。

結び：明るい未来

ガーナがSTEM教育に重点を置くことにより、若者たちが大きな夢を抱き世界を変える機会を得ています。学びを武器に、ガーナの学生たちは世界にチャレンジし、技術の未来を形作る準備ができています。
ガーナのSTEM教育は国を変えているだけでなく、世界を変えつつあるのです。



アフリカ「緑の革命」
未来の農業

アフリカ全土で、農家やイノベーターたちが環境保護に努める一方、増大する人口に対応した農業の見直しを図っています。ガーナでは、熱帯雨林を保護しながら適正な収入も得られるように、「持続可能なカカオ農業プロジェクト」が農家を支援しています。

ガーナにおける持続可能なカカオ農業

ガーナは、環境と農家の両方を支援する革新的なプロジェクト「持続可能なカカオ農業」の取り組みを牽引しています。プロジェクトの1つ「未来の農業」は、ガーナのクマシ近郊で実施されています。木々や穀物の育成に加え、土壌の改良を組み合わせることで、豊かな土壌の維持とカカオ収穫量の増加を支援しています。さらには、地元農家にこれらの技術指導も行なっています。

モンデリーズ・インターナショナルの「ココア・ライフ」は、20万以上の農家と協力して持続可能な農業を目指すプログラムです。直射日光に弱いカカオの木を守るためのシェードツリー(日陰樹)の植樹支援、あるいは植樹した木の所有権が農家に与えられるといった、適切な農業形態を推進しています。
一方、ガーナ・カカオ研究所は、農業廃棄物から作られた堆肥やバイオ炭を利用して土壌を改善する取り組みやカカオ苗の育種研究を行ない、農家を支えています。

また、カカオ農園から出る廃棄物をバイオ炭に変えるアサセ・パ社のプロジェクトは、土壌の改善や脱炭素効果が期待されています。「カーボン・クレジット」の仕組みを利用し温室効果ガスの削減量を売ることで、農家は収入を得ることもできます。　ガーナは、森林減少抑制プログラム「カカオ・フォレストREDD+プログラム」に取り組み、植樹や栽培技術の向上を農家に奨励するとともに、「カーボン・クレジット」を生み出す政策を実施しています。これらの取り組みは、農家を支え、ガーナのカカオ農業をより持続可能なものにしています。また、次世代のために地球を守る役割も果たしています。

革新的都市型農業ソリューション

ケニヤでは、建物の壁面を利用したバーティカルガーデンや水耕栽培システムといった都市型農業の革新的なソリューションが採用されています。これにより、狭い空間が生産性の高い緑地へと変貌し、都市型住宅でも野菜を栽培することが可能になります。

ドローンが農家の力に

ルワンダは、他の国に先駆けて農業分野にドローン技術を取り入れることで飛躍を遂げています。北部州では、ジャガイモ農場の管理にドローンを使っています。上空から捕らえた画像は、成長の度合いや栄養不足、あるいは病気感染の特定に役立っています。農家はドローンから送られる情報をもとに正確な判断を下すことができ、その結果、作物の収穫量は向上し、コストの削減も可能にしています。

革新・成長
持続可能性

AFAM賛助会員募集中

AFAMは、宮城県や東北に住むアフリカ人と日本のコミュニティとの交流の活動を行っています。国ごとではなくアフリカすべての国を対象とした、ほかの地域にはない組織です。アフリカ開発に関する公開セミナーや、パフォーマンスや地域社会での奉仕活動を通じてアフリカの価値観や文化を促進するイベントや公開セミナーなどを通じて、東北の国際化を支援しています。東北の大学に在籍する学生や社会人のアフリカ出身者、約100人とネットワークを結んでいます。

AFAMは市民活動に参加し、自治体や団体と協力して、アフリカの価値観や文化に対する日本社会の理解を深め、東北の活動を支援しています。また、東北地方の大学に留学するアフリカ人留学生を歓迎し、彼らを支援しています。JICAなどの機関や地元企業と協力して、アフリカ開発に関する公開セミナーや留学生のためのスタディーツアーを開催しています。地方自治体や市役所・区役所が開催するイベントに積極的に参加しています。老人ホームを訪問し、アフリカの価値観を伝えるために歌やダンスを通じて高齢者との交流を行っています。是非私たちの活動をご支援ください。

賛助会ご加入希望者は、AFAMまでメール等でご連絡下さい。　『**support.afam@afam-org.com**』

◎　賛助会員の区分と年会費

- 個人会員　　1口　3,000円
- 団体会員（企業などの法人、任意団体など）　　1口　10,000円

※　1口以上、何口でも結構です。

◎　賛助会員の特典

- 個人会員　　アフリカ現地で購入したビーズブレスレットなど。
- 団体会員　　アフリカ出身のAFAMメンバーが講師として、ご要望のテーマで出前授業。

◎　賛助会員の会費指定口座

七十七銀行　一番町支店（205）普通預金口座：5009810

【宮城アフリカ協会　会長 ASIEDU ISAAC YAW】

SPONSORS

公益財団法人宮城県国際化協会
未来の東北博覧会記念国際交流基金助成金事業

みやぎ生協

株式会社カネダイ

ボーダレス株式会社

AFAM
African Association of Miyagi

本雑誌はダウンロード可
PDF版はこちらから >>
afam-org.com/afrimag/